

令和4年度第3回芽室町総合計画審議会 議事録

令和4年8月31日（水）18:30～20:08

芽室町役場2階会議室7・8

■出席委員（13名）

明瀬委員、岡田委員、小椋委員、小池委員、白銀委員、鈴木委員、高道委員、鳥本委員、貫田委員、林委員、廣江委員、松山委員、佐藤委員

■欠席委員（2名）

小林委員、珠玖委員

■事務局・説明員

石田政策推進課長、村上政策調整係長、佐藤主事

佐々木総務課長、中島総務課長補佐兼危機対策係長、西田魅力創造課長、小林魅力創造課参事、佐藤都市経営課長、大野健康福祉課長、仲野商工労政課長、橋本環境土木課長、齋藤環境土木課長補佐兼生活環境係長、有澤教育推進課長、日下生涯学習課長、西科公立芽室病院事務長、江崎公立芽室病院参事

■ 1 開会及び会長あいさつ

■ 2 事務局説明

調査事項（1）2021年度（令和3年度）施策実績評価について＜資料1＞

事務局

説明員の都合上、議案記載の施策⑦を先に審議していただき、その後①～⑫と進めています。

⑦公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展

意見

感想となるが、実際に私も家族も利用させていただいたが、病院の総合診療科が充実していると感じている。このまま町民が使いやすいように進めていただきたい。

公立芽室病院事務長

我々も総合診療科は充実してきたと感じている。高齢化社会を迎えるにあたって、地域包括ケアの観点も大事にしており、希望する方には在宅診療も可能として進めていきたい。

①地域内循環の推進と商工業の振興

委員

成果指標①（製造品出荷額）について、2021年度実績が8月判明となっているが、まだ判明していないのか。

商工労政課長

今現在判明しておらず、もう数日かかる予定。

②地域資源を活用した観光の振興

委員

嵐山の食堂のメニューについて、町民から昔のメニューがなかったという声を聞いた。また、キャンプ場も町民向けというよりも観光客向けと感じており、町民が使いにくいという声も聞く。施策マネジメントシートの7にも記載があるが、町民や利用者の声を聞いていただきたい。

魅力創造課参事

今まで町民だけをターゲットにしていたが、町外からの来訪者もターゲットに含めている。おっしゃるとおり、新嵐山の改革により以前ご利用いただいている方からは、使いづらくなったとの声は聞いている。ただ、いただいた意見はプラスに捉えてこれから改善していくこうと考えている。例えばキャンプ場では、駐車場からキャンプサイトまで遠いという意見から、リアカーの貸出や芝刈り機に荷物を載せることなどの改善をしてきた。食堂のメニューにしても、全ての意見に対する改善はコストの面などから難しいと思うが、前向きに検討して進めていきたい。

委員

息子が小学校の行事で新嵐山に行った時の感想は、色々なアクティビティがあり、楽しかったと言っていた。若い人向けと感じる面もあるが、広報誌だけではなく、色々な媒体で嵐山の改革を周知できたら良いと思う。

魅力創造課参事

広報誌以外では新聞の折込チラシやSNS、「月刊しゅん」や「Chai」においても周知を行っており、引き続き進めていきたい。また、担当者としては昔のように子どもで賑わってほしい思いがあり、ターゲットはファミリーとしている。最近では親子3世代で来ていただいた方や、子どものために初めて嵐山に来たという方がいる。今まで来ていただいた方からも賛同していただけるように進めていきたい。

委員

町民の中には新嵐山の改革に批判的な声を聞く。よくわからない状態で進めていくではなく、ターゲットはファミリーというような狙いや工夫なども町民には積極的にお知らせいただきたい。

③学校教育の充実

委員

コロナ禍において、デジタル化など教育委員会も工夫して進めていると理解している。これから課題は子ども達のコミュニケーションだと思う。中学校の宿題はタブレットを活用しているが、教科書とノートで勉強している姿と異なり、友達同士や親子で勉強することが減っている。コミュニケーションは教育において大きな問題だと思う。デジタルは便利であるが、子どもたちがコミュニケーションをとれない状況になるという課題を認識した上で進めていただきたい。

教育推進課長

コロナ禍により、令和2年度に国の方針でG I G Aスクールが急激に進められた。タブレットを用いた教育においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をセットで進めている。「協働的な学び」とは、生徒がそれぞれタブレット上で学んだことを教室の大型掲示装置に映し出し、みんなで協議し合うというものである。タブレットの活用は令和3年度の下期から開始されており、まだ生徒は「協働的な学び」を実感できていないのではないかと思うが、学校の授業において進めていきたい。

委員

タブレットがあっても普段の授業で子どもが主体的に発言したり、話し合うことができているかが重要。

また、成果指標に生徒の心の不安などを評価する項目がない。成果指標では授業を理解したことではなく、その学習に興味があるかが重要だと考える。

教育推進課長

タブレットなどを活用する中で、人との関わり方や人権教育が失われてはならないと考えている。G I G Aスクールでは機械を学ぶのではなく、機械を使ってみんなでよりよい学びや地域の課題を解決できるように、我々もはき違えないように進めていきたい。

④社会教育の推進

委員

施策マネジメントシートの7に記載の「柏樹学園の生徒数が減っている、まだ働いている人もいることから、今後の在り方を見直すべきだと思う。」との意見があるが、生徒の減少対策などどのように考えているのか伺いたい。

生涯学習課長

柏樹学園の生徒数は減っており、毎年カリキュラムの見直しなど話し合いを行っているが、抜本的な改革には至っていない。65歳以上の方も現役でお仕事している方が多く、柏樹学園の生徒の平均年齢は79歳となっている。今後のカリキュラムとしては、今の高齢者や次代に高齢者になる方に対して、社会教育や自分時間を作ることができる仕組みづくりをしていきたい。

委員

これからは高齢者が人々自適に暮らす時代ではなく、高齢者をうまく活用することで、高齢者も生きがいを持ってなにかできる時代にしていかなければならない。柏樹学園の方には、社会の役に立っていただく仕事を行っていただき、生きがいを実感していただければと思う。

生涯学習課長

高齢者の方も今まで培ってきた知識や経験を社会に反映していただくような機会が必要だと思う。仕事なのかボランティアなのか色々な選択肢があり、その点も含めて社会貢献できるような仕組みづくりが必要だと思う。

委員

郷土史について、語り伝えていく方などが減っており、数年の中で整理していくなければならないと感じている。図書館やねんりんが連携して整理整頓していける場があれば良い。

生涯学習課長

郷土史については、町として考え方を改めて整理の上進めていく必要がある。教育委員会としては、歴史について話を聞いたり体験したりといった学習の場は継続して取組を進めいかなければならないと感じている。また、語り伝えていく方も減っている現状も認識しており、取組方法を検討していく。

委員

コミュニティ・スクールは特技がある方から、生徒に体験してもらうことで、経験を豊かにするという面もあるが、本来は心を豊かにすることが目的である。今後コミュニテ

ィ・スクールが発展していくためには、先生方が本当に必要だと認識することと、カリキュラムの中に組み込むことが必要。学校と町が連携してコミュニティ・スクールを育てていただきたい。

生涯学習課長

コミュニティ・スクールは令和元年度に町内全ての学校に学校運営協議会を設置した。設置することでコミュニティ・スクールを導入したこととなる。学校運営協議会の中で協議される学校経営方針などは学校教育の分野で進めていく必要がある。社会教育においては、地域学校協働活動として地域の方々から支援を受けている。地域の方に期待するものは、地域コミュニティの活性化である。また、生徒には学びに向かう力やコミュニケーションを育むことを目的として取組を進めている。

委員

コミュニティ・スクールの社会教育という面が非常に大きな役割を持つと感じている。芽室は地域全体で生徒や学校を応援している気風を作っていると思う。しかし、まだ町全体で取組を認識している状態にはなっておらず、もっと広めていただけたらと思う。

⑤地域文化の振興

委員

芸術鑑賞について、マネジメントシートにも記載があるが、文化協会との連携が非常に重要だと感じている。芽室には画家や音楽の指導を行っている方も多く、町民がもっと恩恵を受けられないかと思っている。行政からの活動として、芽室の中にある財産をもっと広げていただきたい。

生涯学習課長

行政としての役割では、観光分野と我々社会教育分野が連携して取り組む必要がある。文化協会をはじめ、関係団体と意見交換しながら進めていきたい。

⑥スポーツしやすい環境づくり

(意見・質問なし)

⑧地域で支え合う福祉社会の実現

委員

施策マネジメントシート7に記載の「民生委員の確保に対して新たな取組を行ってほし

い」という意見があるが、現状について伺いたい。

健康福祉課長

民生委員については任期が3年であり、翌年の1月に改選となる。各町内会、行政区から推薦を受けた上で任命されるが、現在では4地区において欠員となっている。改選では4地区を越える欠員が出ると予想しているが、原因は町内会で人材を探すことができないことなどがある。個別町内会とも協議しているが、なるべく欠員がないように進めていきたい。

⑨災害に強いまちづくりの推進

(意見・質問なし)

⑩防犯対策と交通安全の推進

委員

犯罪人口発生計画は帯広警察署に届けているのか。また、芽室交番の地域活動が見て取れないが、どのような活動をしているのか。

環境土木課長補佐兼生活環境係長

交通安全の計画は芽室町としては策定していない。北海道の交通安全計画があり、その計画に準じて取組を進めている。芽室交番の地域活動については、行政の取組とは別の話であるが、関係機関の代表者を集めた会議体にて意見交換をしていると聞いている。

委員

施策マネジメントシート7に記載の「成果指標①が低い理由を記載していただき、特定して取り組むべき」と専門部会から意見があるが、どのように捉えているか。

環境土木課長補佐兼生活環境係長

成果指標①（芽室町は防犯対策が十分であると思う町民の割合）が低いことについて、現状では町内会や防犯協会などと連携して町民の防犯対策に関する意識が低い理由を特定した上で、取組を進めていかなければならないと捉えている。

委員

町内会の活動で、防犯協会や芽室交番の方と一緒に町内会の範囲を見回る活動をした。個人宅の物置の施錠や自転車の施錠など項目があり、点検していたところ、高齢者からは感謝されたが、若い人から「そこまで町内会でやるのか」という批判的な意見があつ

た。やり方を検討する必要があるのではないか。

環境土木課長補佐兼生活環境係長

町内会及び芽室交番の方との見回り活動は、防犯協会の事業として行っている。町民から自宅で「タイヤが盗まれた」「自転車が盗まれた」などご連絡をいただいていることから、近隣の被害の周知も含めて見回り活動を行っており、防犯意識を高めていただきたいという思いがある。また、地域の方との連携した活動は必要であると認識しているが、やり方については、おっしゃるご意見も含めて町内会とも協議していきたい。

委員

見回り活動における防犯意識の啓発活動は、「近所の人をあまり信用しないで」と言う意味にも捉えられる。昔は近所の方がインターホンも使わずに扉を開けてあいさつをしていた。今のご時世ではそれが良いとは思えないが、近隣の方と気楽にコミュニケーションを取れるような環境にしたい思いと反しているように感じた。

会長

防犯啓発は非常に難しい問題。町民の防犯意識を上げることは大切だが、町内会に協力いただくことでさらなる防犯対策にも繋がると思う。活動方法については、担当課及び審議会においても宿題とさせていただき、今後改めて議論に挙げたいと思う。

⑪消費者の安全・安心の確保

委員

消費者協会では特殊詐欺の被害防止に取り組んでいる。消費者協会だけでは限界があり、行政においても啓発活動を行っていただきたい。北海道内の被害として、昨年7月末時点では91件、1億9千万円。今年の7月末時点では急増しており、183件、7億2千9百万円となっている。被害防止活動において行政の考えがあれば伺いたい。

商工労政課長

町民に対する啓発活動については、毎月の広報誌及び町公式LINE等のSNSを用いて、消費者協会や消費者庁からの情報発信している。これからも様々なツールを用いて、幅広い年代に情報発信していきたいと考えている。

環境土木課長補佐兼生活環境係長

防犯意識を上げるという観点からも、ティッシュやチラシなどの活用した啓発活動も実施している。また、年末に被害が多いことから金融機関や大型店舗にご協力いただきながら、周知していきたい。

委員

基本的には対象者は高齢者であり、SNSの情報発信は効き目がない。町内会で啓発活動ができる体制を作る必要がある。

環境土木課長補佐兼生活環境係長

おっしゃるとおり、地域の連携が必要である。これからも地域の連携を意識しながら進めていきたい。

⑫国際・地域間交流の推進

(意見・質問なし)

会長

以上で調査事項（1）を終了する。

調査事項（2）第5期芽室町総合計画後期実施計画案について<資料2>

事務局より資料に沿って説明。

会長

事務局からの説明に対して、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

■3 その他

会長

以上で本日の調査事項が全て終了した。今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いする。

事務局

資料に沿って説明。

会長

今の説明に関して何か質問や意見はあるか。

(質問なし)

■4 閉会

会長

それでは、これで本日の審議会を終了する。

20：08